

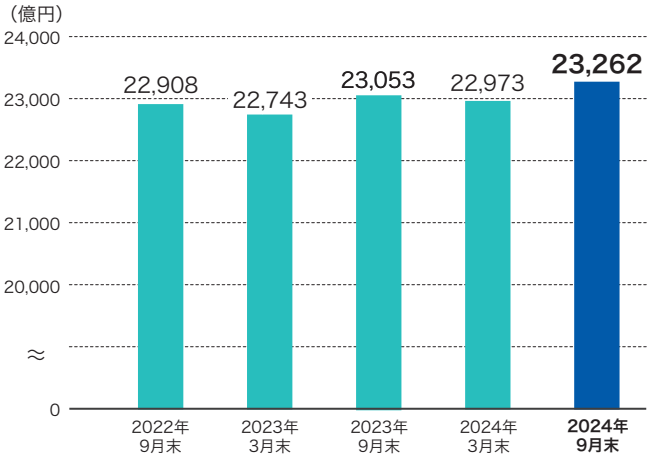
Disclosure 2024

半期ディスクロージャー
2024年4月1日～2024年9月30日

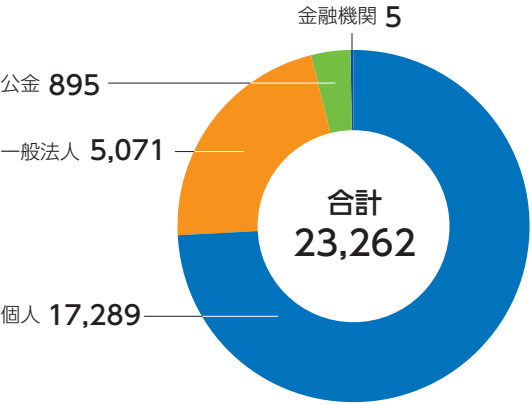
当金庫の2024年度上半期の業況をお知らせいたします。

預金積金

預金積金残高は、定期預金や普通預金などの増加により、前期末比288億円増加の2兆3,262億円となりました。

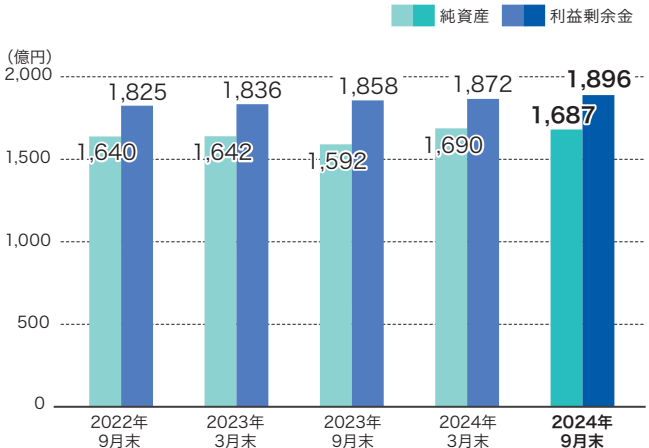


■預金者別内訳 (単位: 億円)



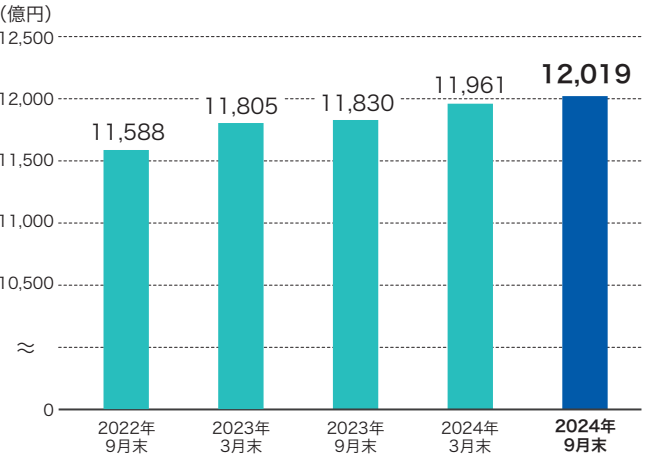
純資産

純資産は、国内金利の上昇などに伴うその他有価証券評価差額金の減少により、前期末比3億円減少の1,687億円となりましたが、利益剰余金は、前期末比24億円増加の1,896億円と、着実に増加しました。

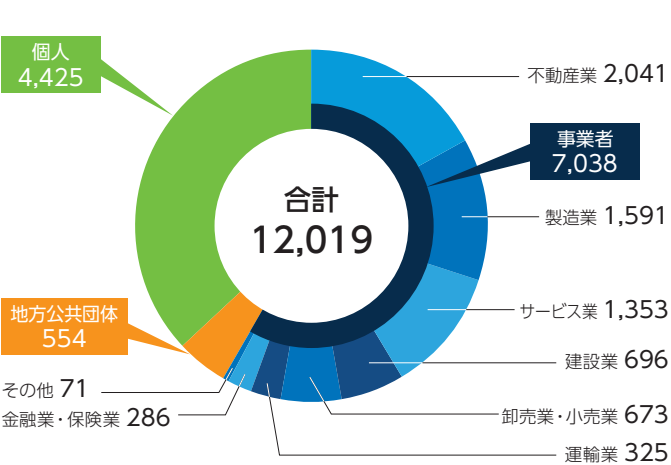


貸出金

貸出金残高は、住宅ローンなど個人向け貸出を中心に増加し、前期末比57億円増加の1兆2,019億円となりました。

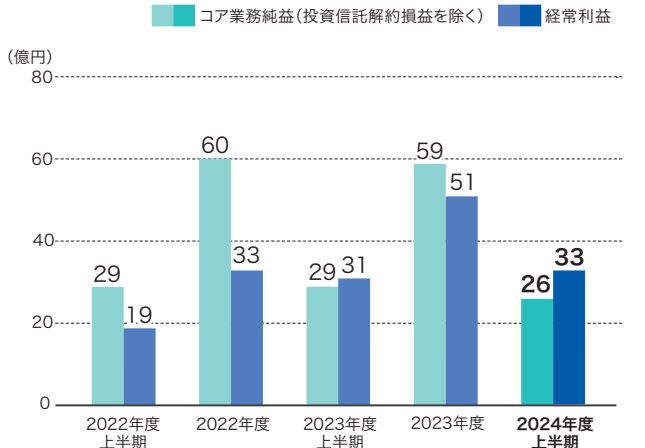


■業種別貸出金残高 (単位: 億円)



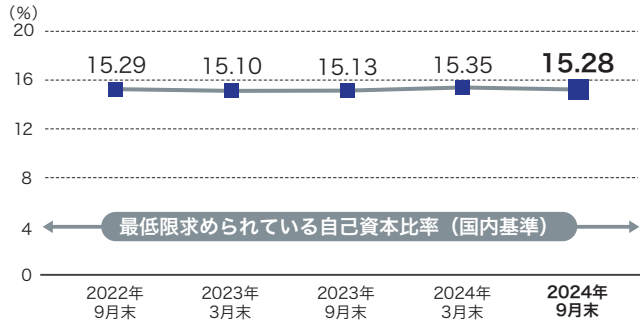
コア業務純益
(投資信託解約損益を除く)
経常利益

コア業務純益(投資信託解約損益を除く)は、人件費などの経費の増加などにより、前年同期比3億円減少の26億円となりました。経常利益は、不良債権処理費用の減少などにより、前年同期比2億円増加の33億円となりました。



自己資本比率

金融機関の安全性を表す代表的な指標である自己資本比率は、利益計上による自己資本の増加はありましたが、総資産の増加などの要因により、前期末比0.07ポイント低下の15.28%となりました。

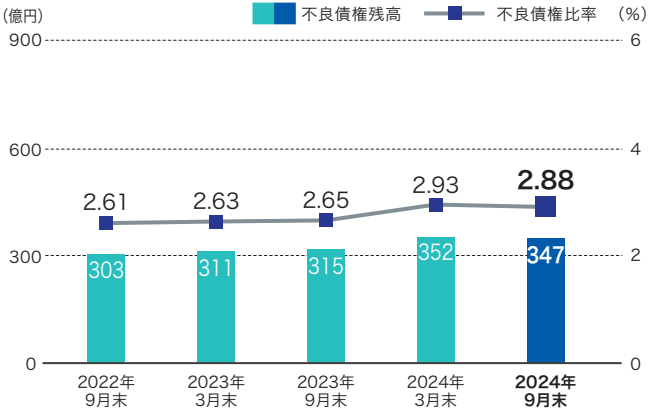


(参考) 自己資本比率=自己資本額÷リスクアセット

不良債権の
状況

「事業再生・経営支援活動」を主体に、地域経済への影響を十分に考慮しつつ減少に努めた結果、金融再生法ベースの不良債権残高は前期末比5億円減少の347億円、不良債権比率は前期末比0.05ポイント低下の2.88%となりました。

不良債権の90.3%が担保や保証、貸倒引当金でカバーされています。



※不良債権比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

損益の状況

人件費などの経費や預金利息増加の一方で、預け金利息や有価証券関係損益の増加、不良債権処理費用の減少などにより、当期純利益は前年同期比1億円増加の24億円となりました。

(単位: 百万円)

	2023年度 上半期	2024年度 上半期	増減
業務粗利益	10,010	10,399	388
資金利益	9,057	9,402	344
役員取引等利益	885	809	△75
その他業務利益	67	187	119
国債等債券関係損益	37	43	6
経費	7,410	7,844	433
人件費	4,797	5,084	287
物件費	2,289	2,405	116
一般貸倒引当金繰入額	-	-	-
業務純益 (※1)	2,599	2,554	△44
臨時損益	507	785	278
不良債権処理損益	△50	250	300
株式等関係損益	473	523	50
経常利益	3,106	3,339	233
特別損益	△3	△0	2
当期純利益	2,256	2,450	194

実質業務純益 (※2)	2,599	2,554	△44
コア業務純益 (※3)	2,562	2,510	△51
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	2,998	2,607	△390

※1 業務純益とは、金庫の基本的業務に係る利益です。
※2 実質業務純益とは、業務純益から、一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。
※3 コア業務純益とは、業務純益から、一時的な変動要因(一般貸倒引当金繰入額および国債等債券関係損益)を除いたものです。

当金庫の概要(2024年9月末現在)

創設	昭和25年10月25日
資本金	2兆5,452億円
預金	2兆3,262億円
貸出金	1兆2,019億円
貸出資産	11億94百万円
自己資本比率	15.28%(単体)
店舗数	78店舗(うち出張所1カ所、インターネット支店1店舗)
駐在員事務所	1カ所(バンコク)
店舗外ATMコーナー	54カ所(共同ATMコーナー含む)
役員員数	1,253人
本店所在地	安城市御幸本町15番1号

基本方針

中小企業並びに国民大衆の地域金融機関として
地域経済振興のため貢献する。

J C R 格付

A+

へきしんは、株日本格付研究所(JCR)より、
長期発行体格付として、19年連続で
「A+」の評価を得ています。

※へきしんの「格付事由」については、JCRホームページ
(<https://www.jcr.co.jp>)をご覧ください。

■本資料に掲載している計数は、特に表示のない限り、原則として単位未満を切り捨てて表示しています。
■本資料に掲載している計数については、会計監査人の監査を受けていません。

トピックス (2024年4月1日～9月30日)

刈谷市、刈谷商工会議所と
「刈谷イノベーション推進プラットフォーム」を設立

8月29日に、中小企業振興およびスタートアップ連携促進の基盤強化等を図るため、刈谷市・刈谷商工会議所とともに「刈谷イノベーション推進プラットフォーム」を設立しました。

当金庫は、地域の中小企業とスタートアップをつなぐとともに、地域全体でスタートアップ機運を盛り上げてまいります。



(左から)加藤英樹会頭、稲垣武市長、深谷誠理事長

名古屋商工会議所、名古屋銀行との連携による
「パートナー発掘商談会」を開催

9月11日に、名古屋商工会議所を会場に、名古屋商工会議所と名古屋銀行との連携による商談会を開催し、発注企業10社に対し74社(商談数119件)が参加されました。

当金庫は商談会等の開催を通じて、お客さまの販路拡大や新たなビジネス展開を応援してまいります。



バンコク駐在員事務所10周年記念式典を開催

本年7月2日に当金庫バンコク駐在員事務所が開設10周年を迎えたことを受け、7月4日にバンコクにおいて記念式典を開催しました。在タイ日本大使館の大鷹特命全権大使をはじめとして、お取引先の皆さまに多数ご出席いただきました。

今後もタイと日本、アセアン地域の未来に向け、お客さまのお役に立てるよう取り組んでまいります。



特殊詐欺等被害防止への取り組み

特殊詐欺等の未然防止に積極的に取り組んだ結果、地域の警察署より多くの感謝状をいただきました。

また、年金受給日である8月15日には、安城・刈谷・碧南の各警察署と連携して、ATMコーナー等において来店客に特殊詐欺等の被害防止を呼びかけました。

お客さまの大切な預金をお守りするため、積極的に被害防止に取り組んでまいります。



安城警察署にて表彰(サルビア支店)

一般社団法人
金融データ活用推進協会(FDUA)に加盟

愛知県内の信用金庫で初めて、FDUAに加盟しました。FDUAでは「金融データで人と組織の可能性をアップデートしよう」をミッションに掲げており、FDUA加盟により得られるAIやデータの利活用に関する知見を取り入れ、地域のデジタル化やお客さまのデジタルによる課題解決に取り組んでまいります。



へきしんアプリにて「スマート通帳」を取扱開始

へきしんアプリの新機能として、8月5日より「スマート通帳」の取り扱いを開始しました。紙の通帳にかわり最大10年間の入金明細を閲覧いただけます。

今後も非対面でご利用いただける商品・サービスを充実させ、お客さまの利便性向上に努めてまいります。



愛知県安城市御幸本町15番1号

<https://www.hekishin.jp/>

「資料編」のご案内

財務状況等のより詳細な情報については、「資料編」を作成しています。「資料編」は当金庫ホームページに掲載しています。

<https://www.hekishin.jp/about/disclosure/shihanki.php>



2024年11月発行